

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校思斉館小学部
校長 菊池典男

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

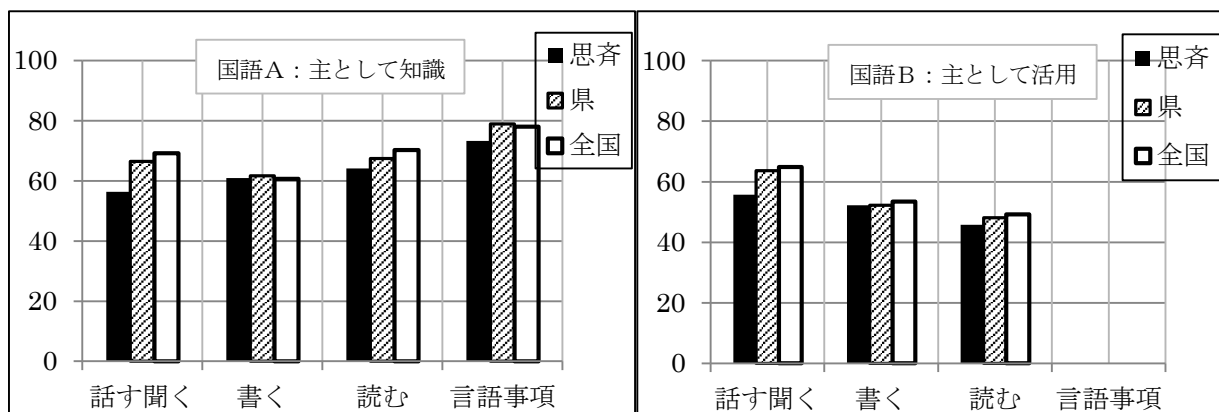
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び佐賀県正答率との比較



調査Aでは、「書く」領域で、全国平均正答率をやや上回った。しかし、他の領域や調査B(活用)では全領域で全国及び県平均正答率を下回っている。特に「話す聞く」領域は開きが大きい。しかし、無回答率は、どの問題においても低く、あきらめずに粘り強く課題に取り組もうとする児童が多いことがわかる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・A問題の「お互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話し合う」問題やB問題の「スピーチメモを使うことのよさについて考える」問題は、特に正答率が低く県や全国よりも大きく下回っている。日々の授業や生活の中で、児童一人一人がそれぞれの役割について考えながら話し合う場面や、自分の考えが伝わるようにスピーチメモを活用して話す場面などを、日常的・継続的に設定し、指導していく必要がある。

書く

・「目的や意図に応じ内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうか」をみる問題は、全国平均正答率を5ポイントほど上回っている。これは特設の「賢賢タイム」で、条件作文などの学習に取り組んだ成果で書く能力が身についてきていることがわかる。しかし、手紙の構成を理解していない児童が多いため、低学年の段階から相手を考えて、手紙を書く活動を設定する必要がある。

読む

・「俳句の情景を捉える」、「話し合いの中で相手の発言の意図を捉える」問題は、正答率が低い。授業において、情景や作者の思いを想像して読ませたり、物語を読んで感想を伝え合い、どうしてそう思うのかを質問したりする場を設定し、読解力を向上させていく必要がある。

言語事項

・漢字の読み書きの間違が多い。繰り返しの学習をさせ、日常で漢字を使うことの指導を徹底していく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「自分の考えを持たせ、伝える」学習を多く取り入れます。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、討論、案内や紹介など日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

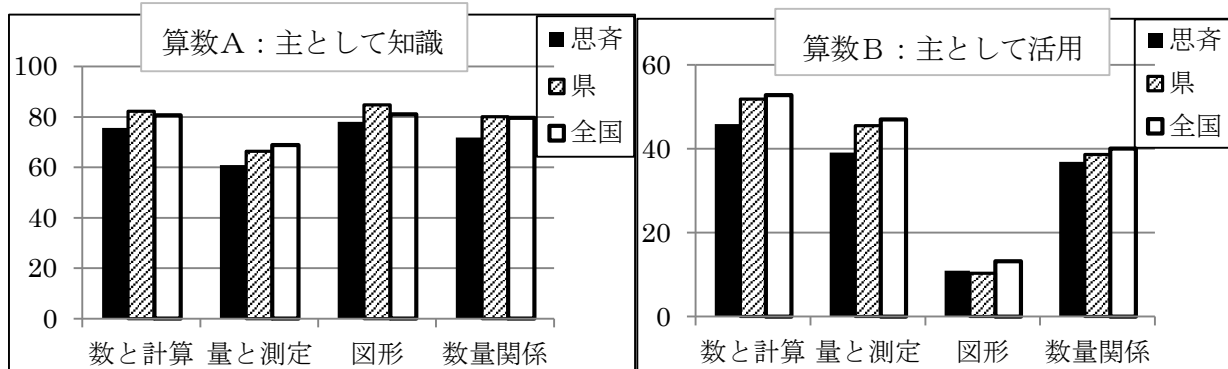
【ご家庭では】

- 家庭での読書の時間を確保しましょう。できたら、お子様と一緒に本を読んでください。そうすれば、本が好きで本を自然に手に取る子に育つと思われれます。読書は国語の力を伸ばす最良の取り組みです。
- 音読は重要です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文の構成、主題等も理解することができます。

2 算数

(1) 結果

全国及び佐賀県正答率との比較



調査Aについては、「量と測定」や「数量関係」は、全国平均正答率と大きな開きがある。調査Bにおいても「量と測定」や「数と計算」領域においては、全国平均正答率と大きな開きがある。またB問題の「図形」領域は、全国平均正答率も低く、改善の必要がある。しかし、無回答率は低く、どの問題においても粘り強く取り組む姿勢が見られる。

(2) 成果と課題

数と計算

・整数のかけ算や、たし算・かけ算の混じった整数と小数の計算など四則計算の間違が多い。また商を分数で表すことも苦手である。毎週2回、朝の時間に実施しているチャレンジタイムを有効に活用していくことで計算力をつけていく必要がある。

量と測定

・「ものの重さや長さを同じ大きさのいくつ分かで比べる」問題や、「仮の平均を用いて平均を求める」問題などの正答率が低い。日々の授業の中で、ものの重さや長さ・かさなど直接比べたり、同じ大きさの物のいくつ分かで測ったり、器具を使って図ったりする体験活動を多く取り入れていく必要がある。また、問題を解いていく過程を、式や図・文章などを使って詳しく記述していくことなども指導していく必要がある。

図形

・「円を使って正五角形をかく」問題や「円の直径や円周の関係を、図を使って考える」問題などで正答率が低かった。指導にあたっては、いろいろな図形を自分でかく経験を数多く取り入れ、図形を構成している辺や角の関係について確実に理解させていく必要がある。

数量関係

・「資料を表に表したり、表から情報を読み取ったりする」問題や、「もとにする量・くらべられる量・割合・などの関係を正確に捉え、それを利用して解く」問題などで正答率が低い。いろいろな数の情報を整理する時、表を使ったり、表にまとめてある情報を読み取ったりする活動や割合の問題などに数多く取り組ませる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、「めあて・まとめ・振り返り」の一貫性のある授業を行います。また、自分の考えや解き方を図や数直線、言葉で表現するよう指導するとともに、それを説明したり、よりよい解決の方法を話し合ったりする活動を通して、思考力、判断力、表現力を養います。
- 火曜日と木曜日の朝の時間に行う「チャレンジタイム」で四則計算の練習や、学習したことの復習を行っていきます。
- 少人数授業や担任教諭と少人数担当教諭とのT T授業を行い、きめ細やかな指導を目指します。

【ご家庭では】

- 毎日の宿題やテストなどにも目を通していただき、励ましの言葉やアドバイスをお願いします。
- 算数の苦手意識を克服するには、日常生活場面の中で、算数を意識的に話題にするのが効果的です。特に買い物などの場面は、数学的思考力を身に付けさせる絶好の機会です。買い物をしながら、意図的に声をかけて考えさせてください。生活と密着した問いかけは、とても効果があります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校%	評価	全国平均 %
毎日同じくらいの時刻に寝ている。	87.5	○	79.8
毎日同じくらいの時刻に起きている。	93.7	・	91.2
朝食を毎日食べている。	95.4	・	95.4
平日2時間以上テレビを見る。	75.6	▲	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	37.5	△	31.1
平日読書を30分以上している。	37.6	・	36.5
自分には、よいところがあると思う。	79.7	・	77.9
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	98.4	・	94.8
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。	68.8	◎	35.4
友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。	50.1	・	52.2

起床・朝食については90%を超えており、就寝についても90%を超えてはいないが、全国平均を上回っている。全校で「早寝・早起き・朝ご飯、頑張ろう週間」の取組により、児童の意識も高まり家庭の協力も得ることができ、定着できていると思われる。今後も定期的実践し、更に定着を図りたい。

平日のテレビやゲームの時間は全国平均より長く、特にテレビを見る時間が長い。平日の読書時間は、昨年度より伸びて全国平均をやや上回ってはいるものの、30分以上読書をしている児童は40%にも至っていない。家庭との連携や図書室の有効な活用などを図りながら、読書の推進をすすめていく必要がある。

自分の考えを発表することが得意な児童は全国平均と比べてやや下回ってはいるが、昨年度より20%ほど伸びている。授業の中で、意見交流の場を意識的に設けるなどしてきた結果である。さらに児童の主体的・対話的な学びが実現できるよう取組を工夫していく必要がある。

ボランティア活動に参加したことがある児童は全国平均より30%ほど多く、昨年度より20%ほど伸びた。これは、中学部と一緒に地域のクリーン作戦を行う「全校ボランティア活動」に参加したり、地域のボランティア行事に参加したりしているからだと思われる。また活動への参加が、達成感や自尊感情の形成にも関わっていると考えられる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	評価	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	21.9	△	27.1
平日1～2時間勉強している。	43.8	○	37.3
平日0～1時間勉強している。	32.8	・	32.7
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	98.5	・	96.9
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	48.5	○	41.0
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	65.6	◎	53.8

平日2時間以上勉強している児童の割合が全国平均に比べて5%ほど下回っているが、昨年度より全体的に学習時間は伸びている。宿題の取組も定着しつつあり、予習復習をする自主学習への取組率も伸びている。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本とした復習中心の宿題を出します。高学年では、予習復習を含めた自主学習への取組を進めていきます。
- 中学部の定期考査に合わせて、「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」と「家庭学習頑張ろう週間」を設定し、生活習慣の改善や家庭学習の定着を目指します。
- 意見交流の場を設定した授業づくり、自尊感情を高める教育活動を今後も進めていきます。

【ご家庭では】

- 低学年の時から、決まった時間に決まった場所で学習する習慣をつけ、学習の様子に励ましや称賛などの声かけをお願いします。
- 「早寝・早起き・朝ご飯頑張ろう週間」「家庭学習頑張ろう週間」などの取組へのご協力を宜しくお願いします。